



前回この情報誌上で募集しました、本紙の名称が決まりました。たくさんの声や手、情報やコト、モノがわいわい集まる、ひとつの「ひろば」になれば、と思っています。

さあ、みんなでできること考えよう！

できること あるある講座

自分たちがこれからももっとイキイキ、心豊かに暮らせるために、できること、一緒に見つけてみませんか？どなたでも参加できる、「自分たちでできることを考える」講座です。お気軽にご参加ください。

聞こう

3月 8日(土)

10:00~12:00

地域で活動していることを聞いてみよう

地域スポーツクラブ・科学遊びクラブ・傾聴ボランティア・地域のサロン活動・施設での個人活動 など

見よう

3月 25日(火)

10:00~12:00

地域の活動を訪ねてみよう

「赤とんぼ」・「和茶モン」・趣味や伝承の手仕事活動などみんなで見に行きます。



語ろう

4月 5日(土) 10:00~12:00

振り返り茶話会

「こんなことあるんだなあ」「こんなことどうかな？」
… いろいろお話ししましょう！



場 所：富士見町コミュニティ・プラザ
2F 実習室

お問い合わせ：ボランティア・地域活動ネットワークふじみ事務局 ☎78-8986

「科学遊びクラブ」始めます!!



あかさかゆきお
着々と活動の準備をしているのは、境にお住まいの赤坂行男さん。赤坂さんにその思いをお聞きしました。



Q なぜ「科学遊びクラブ」を始めようとするのですか。

A 私は科学大好き人間です。子ども達が「科学的な遊び」を体験することにより、物作りや科学技術に興味を持ち、将来の技術立国日本を支える人材に育っていけばと願っています。

Q どんな科学遊びを考えていますか。

A 風船を使った科学、紙飛行機、空気圧ロケット、電気、音や光を利用した遊びなど、60種類以上の科学遊びを用意してあります。昨年の12月15日には図書館主催の「万華鏡教室」を行い、親子合わせ28名の方が万華鏡作りを楽しみました。

Q いつ、どこで、どんなことをやりますか、教えてください。

A 現在クラブ開始に向けていろんな準備を開始しています。来年とりあえず、年4回(春、夏、秋、冬)の「子ども科学遊び」を予定。ゆくゆくは、月1、2回の「科学遊び教室」を開きたいと思っています。小学校高学年を対象に、中学までの理科の学習も網羅した「科学遊び」を、子ども達の様子を見ながら進める予定です。

Q ところで赤坂行男さんは、理科の先生ですか？

A 研究所で働いていた研究員(工学博士)です。大学生の研究を指導したことがあります。

活動が始まりましたら、随時ご報告していきますね。

また、一緒に活動してみたい方、お父さん世代も大歓迎。詳しくは事務局まで。

オカリナすずらの会

町公民館のオカリナ講座で集まったメンバーでグループをたちあげ、8年目。

16名で和気あいあいとお互いに研鑽を積みながら楽しく活動をしています。

焼き物のオカリナは、音を合わせるのが難しい奥の深い楽器ということで、週一回の練習は真剣そのもの。今までに130

を超える曲をマスターし、ボランティアでの演奏依頼も増えてきました。



「呼んでいただければどこへでも」と、笑顔でおっしゃる皆さんでした。

👉ここで楽しめます!

「café DanDan」さんで「オカリナ喫茶」やっています。今年は3月から隔月の第二水曜日（予定）の14:00～。どなたでもお寄りください。一緒に歌ったり、手持ち楽器でのコラボも大歓迎。

入笠ボランティア協会

富士見町の西にあたる入笠山、その山頂近くに入笠湿原があります。ここは長野県環境保全地域に指定されています。保護活動は30数年前より有志で始まり、2003年その活動を



を永続させるため入笠ボランティア協会を立ち上げました。翌年4月5日それまでの保護活動が認められ、今までどおり手を入れることが許された珍しいケースで指定されました。2013年は会員数195名、地元を含め、県内外から参加いただいています。活動は日々の湿原の手入れや、年3回の集団作業、2回の講演会なども行い自然の大切さを学んでいます。

手を入れた湿原に綺麗な花が咲いた時「ここが私の第二の故郷」と嬉しそうに喜ばれる方、杖をつきながら「私にはこの位のことしかできないから」と、ビニール袋に空き缶や、ゴミを集める姿に頭が下がります。入笠湿原は多くの方により守られています。



おしらせ

創作ボランティア 進藤五十鈴さん 作品展

工夫を凝らした独自の作品を創作、町内外各所に提供し、季節ごとなみなさんの目を楽しませてくださっている進藤さんが作品展をします。

期間 2月22日(土)～3月9日(日)
 内容 シルクスクリーンの作品他

場所 下諏訪町 諏訪湖博物館・赤彦記念館
 お問い合わせ 諏訪湖博物館・赤彦記念館

TEL 0266-27-1627/ FAX 0266-27-9755



人間鍛えると考えられない事をするよ
 うだ。

真言密教の「木食」(もくじき) 僧である。木食僧とは、聞いたことのある人もおられると思う。

まず、食べ物の修行がある。「五穀を食べない。火を使わない。肉、魚を食べない。塩を使わない」のだそう。私にはとてもできない。次に、通年、墨染の衣一枚にて過ごすのだそう。気温十度を下げると、ピリピリとする。大寒のマイナス十度、二十度を衣一枚で過ごすことなど、とてもできない。生きていくことは無理だ。また、村から村への移動は夜のみだそう。今の世の道路状況でこれは語れない。月が出た晩は可能だ。出ない晩は無理だ。真つ暗やみを動くことはできない。次の朝、川の中に沈んでいるのが発見されるだろう。

今から二七〇年前、木喰行道という僧が日本全国を巡回修行した。あちこちで材木に仏を彫って歩いた。笑顔が特徴で「微笑仏」と言われており、全国に七〇〇体を超す木仏を残している。乙事にも「普賢菩薩」がある。

私の楽しみの一つは各地を訪ね木喰仏に会うことである。何体にも会えるかなあ、楽しみ。ところどころこの私の趣味、ボランティア活動になりますかねえ?



(あめちゃん)